

年間第29主日

「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、⁴⁴いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。⁴⁵人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」。

-マルコ10. 43-45

今日の福音で、主は、この世で「偉くなりたい者」は、自らを他者のしもべとならなければならないと教えています。イエス様ご自身が、その生きるお姿によって、私たちがお互いに仕えあわなければならないことを、私たち全員に示してくださいました。

実際、私たちが教会として行っていることは、「**交わり**」と「**参加**」という2つの言葉で表すことができます。この言葉を指針とするならば、私たちの教会は、より多くの人人々を包みこみ、誰一人として孤独を感じる場所となるでしょう。イエスは私たちに、聖体でイエスの体と血を与え、イエスとの共同体に生きるように呼びかけています。また、イエスは、私たちが一つの体となり、姉妹や兄弟との共同体に生きるように招いています。このようにイエスの体と血を受けることによって、私たちはお互いに仕え合うことができるのです。共同体では、豊かすぎて何も受け取れないという人はいませんし、貧しすぎて与えることができないという人もいません。

イエス様は、最高のしもべです。私たちに仕えるために、かれは罪を除いてすべての点で私たちと同じになりました。私たちと同じように苦しみを知っておられます。

私たちと同じように苦しみ、同じ弱さを持っておられます。これこそが、私たちが自信を持ってイエスを呼び求めることができる理由です。イエスが私たちの必要なときに助けてくださるという確信を持つことができる理由なのです。イエスは、互いに仕え合っこそ、真の神に出会えることを教えてくれます。

さらに真の主の弟子は、他の人に仕えるものとなります。他の人が人として、コミュニティの一員として成長するのを助けるために、日々努力します。

神様は、私たちに数えきれないほどの祝福を与えてくださいました。私たちが持っている知識、知性、力、権威、財産などは、すべて他の人に奉仕するためのものです。それらは間違った方法で使われるべきではなく、他の人々が神の望まれる人物になるのを助けるために使われるべきです。

神様が私たちに与えてくださったすべての賜物は、私たちが独占的に使うためのものではありません。人に仕えるために使われるべきものなのです。聖パウロは、教会を人間の体に例えています。体には目、耳、手、足などがあるように、すべてのメンバーがお互いに補い合って、体全体の機能を維持していると語ります。私たちの教会でも同じことが起きています。私たちはお互いを必要としています。私たちは、「**キリストのからだ**」の中に生かされていますから最も助けを必要としている部分に奉仕することに専念すべきです。

最後に私たちが他者のしもべとして生きることを神が祝福し、助けてくださいますように祈りましょう。また、私たちがお互いに仕え合うための力と勇気を与えてくださいますように神に祈りたいと思います。

